

登録コード	L1430100	開講年度	2026				
担当教員	渡邊 綾			副担当			
授業科目	社会学特論Ⅰ						
英文授業名	Introduction to SociologyⅠ						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生	2～4	講義期間	前期	曜日・時限	水曜・2時限
講義室	人文212講義室		遠隔授業科目		読替科目		
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			⇔	【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前カリ対象】変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力			⇔	社会学的な認識を構築するための社会調査法の考え方を理解する。		
	【2022年度以前カリ対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力			⇔	社会調査の変遷や役割・意義について理解し、適切なデータの収集・分析を行うための知識を身につける。		
	【2022年度以前カリ対象】情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー			⇔	社会調査によるデータ収集の手続きを理解し、調査倫理を遵守しつつ、適切に情報をまとめ、報告する能力を身につける。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降カリ対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			⇔	社会学的な認識を構築するための社会調査法の考え方を理解する。		
	【2023年度以降カリ対象】必要な情報を確に収集し、理解し、発信する力が身についている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】			⇔	社会調査の歴史と社会調査によるデータ収集の手続きの体系を理解する。		
授業で学べる「テーマ」	地域運営、多文化協働、キャリア						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	さまざまな社会現象の解明に必要なデータを得るためには、社会調査法の修得が求められる。本講義は「社会調査とはどのような営為なのか」を総体的に把握する。あわせて、受講者が実際の調査実習に進むための有益な導入になることをめざす。						
授業計画	第1回 オリエンテーション-社会調査とは何か 第2回 社会調査の変遷と意義 第3回 社会学における社会調査 第4回 社会調査の出発点(1)問題設定と情報収集 第5回 社会調査の出発点(2)仮説の生成 第6回 社会調査の実施プロセス・対象設定 第7回 量的調査の方法(1)調査の企画・実施の基礎 第8回 量的調査の方法(2)量的データの分析の基礎 第9回 量的調査の実践：調査票の作成・公開データの活用 第10回 質的調査の方法(1)調査の企画・実施の基礎 第11回 質的調査の方法(2)質的データの分析の基礎 第12回 質的調査の実践：フィールドワーク・インタビュー 第13回 社会調査の実施過程における論理と倫理 第14回 調査結果をまとめてみる 第15回 社会調査が直面する課題・授業アンケート実施 ※授業内容・順番は変更する場合がある。						
成績評価の方法	毎授業後に提出する課題・リアクションペーパーの提出（30％）と期末レポート（70％）の結果をもとに成績評価を行う。社会調査の一連の過程に関する基本的な理解が得られ、概念や考え方などを適切に説明できるかどうかを評価する。						
成績評価の基準	リアクション・ペーパー、期末レポートは以下の点から評価する。 （1）社会調査の変遷・意義と社会学との関係について理解する。 （2）目的や活用方法に応じた社会調査のさまざまな類型についての理解する。 （3）社会調査の実施プロセスの理解と問題や対象の設定，調査手法に応じた作業課題の基礎的能力を身につける。 （4）社会調査が直面する課題と求められる論理性や倫理性について理解する。 全ての点について十分な水準・成果に達していると判断された場合は『卓越している』と評価し、いくつかの点で特に優れていると判断された場合は，その程度に応じて『かなり上にある』『やや上にある』と評価し，総合的に一定の水準を満たしていると判断された場合は『その水準にある』と評価する。						
事前事後学習の内容	【事前】事前にオンライン学習システム上にアップロードされているレジュメを確認すること。その際に，わからないことなどは参考文献を確認すること。 【事後】毎授業終了時に紹介する文献を読むこと。						
履修上の注意	毎回授業後に課題を提示し，課題提出をもって出席とする。 オンライン学習システムを通じて講義資料の配布を行うため，これらに対応したWebブラウザなどをインストールした端末及びインターネット環境が必要となる。 教科書の構成に沿って授業を進めるわけではなく，参照するために用いる。						

質問、相談への対応	e-ALPSの授業サイトから質問・相談を行うことができる。 また、対面での質問・相談を希望する場合は、個別にメールで連絡すること。
教科書	大谷信介他, 2023, 『最新・社会調査へのアプローチ』 ミネルヴァ書房.
参考書	前田拓也他, 2016, 『最強の社会調査入門』 ナカニシヤ出版. 谷岡一郎, 2007, 『データはウソをつく：科学的な社会調査の方法』 ちくまプリマー新書. 小林多寿子, 2018, 『系譜から学ぶ社会調査：20世紀の「社会へのまなざし」とリサーチ・ヘリテージ』 嵯峨野書院.